問 消防施設整備の補助金について

答 出来るだけ早く 四町平等に

小林 健志 議員

問 消防施設整備事業の補助金の交付について。対象経費・補助率等が各町ごとに差がある。合併後は公平・公正・平等との話であったが、各町同じにならないのか伺う。

市長 消防ポンプ等消防装備については、四町それぞれで扱いが異なっている。合併時の激変を避ける為に当面旧町の制度を適用する。合併協議の中では五年以内に整理することになっているが、今後消防団の統合や組織のあり方と併せて最も効率的な消防装備等について出来るだけ早く検討したい。

問 要望について。継続要望には国県の採択が必要なものがあり、市の判断だけでは難しいとの答弁でしたが、国県にはどう働きかけているのか、又、自治会等へはどうように回答されているのか伺う。

市長 市として必要だと判断したものには、国県に副申書をつけて要望を重ねている。そういう状況は自治会等へ報告はしている。ただ内容については地元の皆様に満足していただけないものもある。可能な限り、納得いただける回答が出来るよう努力したい。

問 子育て支援の均一化は？

答 統一する必要性ある

大倉 澄子 議員

問 少子化共働き家庭の一般化という環境激変を直視しなければならない。子どもの成長過程で欠かせない遊びや学び、仲間づくりを下支えするものが学童保育と思う。家庭教育の重要性は十二分に理解しているが、生活のためには理想論だけでは進めないのが実情である。せっかくの制度も規則の前で足踏みせざるを得ない。時間料金等、市での一本化への見直しを早急に！

市長 少子化対策は大事な課題である。十八年度実施にむけ調整協議を行っている。

問 女性の社会参加 自立志向の高まりの中、相も変らぬ概念＝女性は家庭を守る＝が残っている。例えば、市職員係長以上の女性は数える程。勤務時間、職務上の注意力責任は同じように課せられているのに、この差が生じるのはなぜか。

今後女性を、その能力にふさわしい地位発言の場におく考えはないか。

市長 係長以上の構成比男性約八十％、女性約二十％。男女共同参画は当然のことと認識している。適材適所と能力判断に基づき行う。行政内のみならず女性の立場、視点からの協力を願う。

問 合併早々、今新市職員採用は是か非か

答 中長期的な計画の中で

田渕 基次 議員

問 合併の一つの大きなメリットとして職員数の削減による人件費削減ではないか。電算機導入時にも人員削減に大きな期待をしたものの結果は非、合併した今採用よりもスリム化効率化が大きく期待されている。

市長 最も求めたスケールメリットは、職員数の削減を中心とした人件費の削減であることは理解している。

問 合併早々市長はどの様な観点から採用にふみきられたか。

市長 職員数は退職者も考慮しながら中長期的計画が必要、将来の年齢構成のバランスも行政運営上好ましいことである。また退職者の一定割合を採用することが好ましいと判断した。

問 消防士、保育士、幼稚園教諭等においては合併した今、余剰職員はないか。特に幼稚園教諭、保育士等の有免許者が若い職員の中にはあると思われる。庁内応募、配置転換等考慮されたい。

市長 ごもっともな意見であります。今後新たな観点から採用募集と並行して配置転換希望をとる等適正配置の中検討したい。